418こちら情報部

yon.ichi.hachi.

創刊昭和55年5月5日
第399号
【通巻400号】

次号は9月5日の発行です。
発行数15,500部

発行所
418こちら情報部（よんいちはち）
〒418-0063
富士宮市若の宮町140（きうちいんさつ内）
TEL〈0544〉24-1515
E-mail：printkiuchi@space.ocn.ne.jp
印刷所
株式会社きうちいんさつ

まっ白な夏雲、
ひまわりと子供たちは
この暑さにも元気いっぱい！

近藤博（小泉）

くらしの中の言葉から⑯

新暦

暦の上では、もう秋になろうとしていますが、とても暑い日が続いています。

暦の季節と実際の気候にズレがあることに違和感のある人も少なくないと思いますが、明治六（一八七三）年に旧暦を廃し、現行の新暦に変更されてから一四〇年も経過しているのに、季節を示す言葉が古いままというのには、少し驚きを感じます。

先月、およそ一万年前に作られた、世界最古のカレンダーがイギリスで見つかったというニュースがありました。なんでも、そのカレンダーでは、一週間が十日、ひと月は三週間で構成されていたのだとか。さらに驚いたのは、そのカレンダーは修正を繰り返しながら、約六〇〇〇年もの長い間、使い続けられたのだそうです。

ひるがえって現在、私たちの周りにはカレンダーや手帳、モバイル機器等があふれており、そこには思い思いに仕事や学校の行事、家族や友人との予定や記念日などを書き込んでいます。そこには、もちろん土用の丑の日や立秋といった、旧暦のことがらを入れている人も多いことでしょう。

昔は権力者など、一部の人だけのものだった暦も、現在では一人ひとりが自分だけの新しい暦を持つ時代になっているようです。いわば、どんな暦を作るかは自分次第。そこには、その人だけの人柄や人生が反映されているのでしょうね。

萬歳

何を書こうかな⑤　一心同体

五月連休後、体調がおかしくなった。暑くは無いのに顔が火照り、汗が出る。足は逆に冷えて、辛い。それが一日の中で、くり返すわけだ。初めての体験だけに精神は乱れた。女房はちょっと前から「足がフラフラするの」と悩んでいたので、私が相談する訳にもいかない。しばらく経つうちに、女房は感染症の胃腸炎に罹った。食が細くなり、ストレスは頂点に達した。顔を見ると、悩みを訴え続ける毎日になっていった。ノイローゼ状態だ。私は方針を変え、自分も不調なことを告げた。「俺、体調、おかしいんだ」と。「それって、更年期障害じゃないの。男の人は大変らしいわよ」と簡単に結論を出してくれた。おい、おい、もっと心配してくれよと、心の中で呟きながらも、翌日、私は薬局へと出掛けた。妻はと言えば、MRIで脳の検査、異常はない。「少し運動でもすれば」と言われる。次は胃カメラだ、これも正常だった。するとおかしなもので、二、三日するうちに、女房はすっかり元気になり、考え方も前向きになっていった。私の方も不思議なことに、体調はその頃には見事に元に戻っていたのだ。一体、私は何だったのだろうか。

望月勝

マンスリーエッセイ 237

お墓参り

私の父方の先祖のお墓は平塚にある。交通の便が良くなかった昔は東海道線を使い、長い時間をかけてお墓参りに出掛けたものだった。子供の私はその意味もあまり考えず、ただ旅行気分で喜んでついて行った。最近は交通の便が良くなり、比較的短時間に行くことが出来るので、以前より頻繁に行くようになった。誰でもそうであろうが、お墓参りに行くと私はほっとした気分になり、心の平静を感じることが出来る。お墓の前で私はいつも亡くなった親父や妹に話しかけるが、私の声は彼らに届いていると思う。

へりくだる

季寄せによれば「暑気払ひ」は、薬を服用して暑気を払うこと。またその薬のこと。梅酒や焼酎を飲むこともある。

かつて、小宴をひらいた折、幹事が「本日は堅苦しい礼儀を抜きにして〝無礼講〟でまいりましょう」と、杯を上げる。暫くすると、先輩が幹事を手招きして、床の間に並べた〔銚子〕の上に「足を載せて御覧」と、促したところ、幹事は空気を察し、「無礼講とはいえ、勘弁して下さい」と遠慮した。――その様子を窺っていた年長者から「実は、銚子の上に足を載せることからして、〔チョウシ〕にあやかり、〔調子に乗るな〕ということなんだよ」と教わる。

エラクナッチャイケナイ
ミットモナイ

絵本作家やなせたかしさんの自作の詩の一節である。

ぼくは絵本の仕事をしている。幼児にはいっさいの権威も名声も関係がない。（中略）凡人のぼくは時々少し慢心して得意になったり、いばったりしそうになる。

そんな時、ぼくはつぶやく

エラクナッチャイケナイ／ミットモナイ

――（PHPアーカイブス「心に響く百の言葉」より）

さて、「仏教読本」（大日蓮編集室発行）によると――『慢』は自我の念に囚われている慢心者のことであって、『増上慢』ともいわれている。自分だけが物事に対してよく精通しているのであって、他人は自分より劣っていると思って人を卑下し、或は又自分は未だ修行や学問が未熟であるのにも拘らず、既にこれを充分に会得しているとうぬぼれて、自ら慢ぶる傲慢不遜の心である。

翻って、へりくだることを「遜」と言う。「遜」の字に「不」がついた〈不遜〉な仕草とは裏腹に、――控え目に振る舞うことを〈謙遜〉と言う。

KENⅢ

譲り合ふ山の出会いや涼新た

会話をすると今でも昔と同じように我々家族がつながっているような気分になるから不思議である。ところで、最近感じていることであるが、案外お墓参りとは亡くなった人の為に行うのでなく、生きている我々が人生の素晴らしいさを再認識する為に行っているのではないだろうか。

角田猛夫

ついに400号達成！

昭和55年5月5日に創刊した「418こちら情報部」が
平成25年9月5日号で400号になります。
そこで400記念号に皆様からの投稿をお待ちしております。
読後の感想などを400字くらいにまとめて送ってください。
「読む楽しみ」を「書く楽しみ」に変えてみませんか。
投稿はハガキ、持ち込み、メールのいずれでも構いません。
締切期日は8月20日です。お待ちしております。

メールアドレスは
printkiuchi@space.ocn.ne.jp